

音楽科学習指導案

授業の
ポイント

既習曲に合う和音を見つける活動を通して、和音の響きを生かした表現を工夫する。

- 学校名 世羅町立甲山小学校 第5学年 21名（特別支援学級2名）
- 指導者 世羅町立甲山小学校 岩井 幸・恒藤 真貴子
- 場所 世羅町立大田小学校 音楽室

題材名「重なり合う音の美しさを感じ取って表現しよう」

1 題材について

○題材観

本題材は、学習指導要領第5学年および第6学年の内容「A表現」（1）エ「各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと」（2）エ「各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること」を指導するものとする。各声部の声や音、和音の響きやその変化をよく聴いて、歌唱や演奏の仕方を工夫しながら、声や音を合わせて歌ったり演奏したりすることができることをねらいとしている。

高学年の児童は、和音や和声に対する感覚が著しく発達する時期であり、いろいろな形態の合唱や合奏などをおして、音の重なりや和声などの響きによる様々な特徴を感じ取ったり、音楽づくりの活動をおして旋律に合う音や和音を探ったりするような活動が重要であると考えられる。また、それらを楽譜で確認したり、旋律と旋律及び旋律と和音との関係などを全体的に感じ取って理解できるようにしたりすることも重要である。このことは、[共通事項]（1）ア（ア）の「音楽を特徴付けている要素」の中の「音の重なりや和声の響き」、（イ）の「音楽の仕組み」の中の「音楽の縦と横の関係」に関わるものである。

これらをふまえて、和音の響きや響きの変化を感じ取らせたいと考え、本題材を設定した。

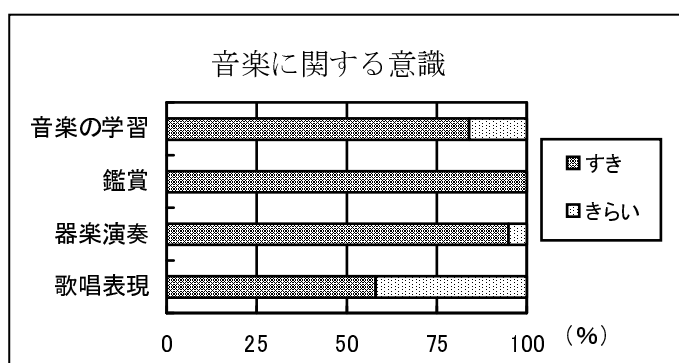
○児童観

本学級の児童は、素直で明るく、音楽の学習が好きな児童が多い。

事前アンケートによると、音楽を聴くことが好きと答えた児童は全員であった。その理由としては、「落ち着く」、「いやされる」、「心がなごむ」などの回答が多かった。また、楽器を演奏することが好きな児童も95%と多い。その理由として、「楽しい」、「爽快感がある」、「気持ちがいい」、「協力し合える」などがあがっている。逆に嫌いな理由としては、「リコーダーを吹くのが苦手」と答えていた。器楽の演奏に際しては、個別に支援をするなどの手立てが必要である。

歌唱表現に対しては、40%の児童が嫌いだと答えていた。その理由としては、「恥ずかしい」、「音痴だから」などの回答が多かった。

1学期の「アジアの音楽に親しもう」では、日本のふしの音階を知り、和太鼓とリコーダーで即興的にふしをつくる学習を行った。新しく音をつくり出す活動は、楽しく意欲的であったが、間



違っているのではないかという不安な様子で演奏する姿も見られた。児童一人一人が自信をもって、活動できるような雰囲気づくりが必要である。

○指導観

指導にあたっては、ハ長調の I・IV・V・V7 の和音を中心に、和音について理解したり、それぞれの響きの違いを感じ取ったりしながら活動を進めていく。また、歌声や楽器の音が重なり合う美しい響きを感じ取らせたり、美しい響きを表現するための工夫をさせたりする。また、和音の響きを中心にしながら「感じ取ること」、「気付くこと」、「表現を工夫すること」などの活動を、段階的に進めていくようにする。

指導にあたってのポイントは、次の2点である。

和音の響きを感じ取らせるために

「静かにねむれ」では、和音のパートが用意されているので、実際の音をとおしてそれぞれの音の重なりを体感させながら響きや音の移り変わる美しさを味わわせる。また、「それは地球」では、和音の響きに移り変わっていく感じを三部合唱で味わわせ、3声の響きを感じ取らせていく。

その際に、一人一人が恥ずかしがらずに自信をもって歌唱表現できるような雰囲気づくりを行うとともに、音の高さと自分の歌声とを聴き比べさせながら歌唱させたい。

声や音を重ねることによって生まれる響きを「和音」という概念でとらえるのは初めてである。楽典的な学習にならぬよう、響きの美しさを楽しく感じ取らせていきたい。クイズやゲームなどを取り入れながら、4つの和音の響きを実感させたい。

表現と聴く活動との関連を図る

自信をもって表現させたり、自らの表現のよさを判断したりできるように、互いの演奏をじっくりと聴く活動を毎時間の中に位置づけ、表現と聴く活動との関連を図りながら活動を進めていきたい。

2 題材の目標

- 各声部の歌声や全体の響き、ピアノ伴奏を聴いて声を合わせて歌うことができる。
(A表現(1)エ)
- 各声部のリコーダーの音や全体の響き、オルガン伴奏を聴いて音を合わせて演奏することができる。
(A表現(2)エ)

3 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
題材の評価規準	各声部の声や楽器の音を聴きながら、自分の声や音を調和させて歌ったり演奏したりする学習に主体的に取り組んでいる。	声や楽器の音が重なり合う響きを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、合唱や合奏の表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	主な旋律や副次的な旋律、全体の響き、伴奏を聴きながら、自分の声や自分の音を友だちの声や音と調和させて斉唱や合唱、合奏をしている。

学習活動における具体の評価規準	<p>① 各声部の楽器の音や全体の響き、オルガン伴奏を聴きながら、自分の音を友だちの音と調和させて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② 各声部の歌声や全体の響き、ピアノ伴奏を聴きながら、自分の声を友だちの声と調和させて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>① 互いのリコーダーの音、リズム、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりや和声の響き、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、合奏の表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p>② 互いの歌声、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりや和声の響き、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、合唱の表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p>	<p>① 主な旋律や副次的な旋律、全体の響き、伴奏を聴きながら、自分の音を友だちの音と調和させて合奏や重奏をしている。</p> <p>② 主な旋律や副次的な旋律、全体の響き、伴奏を聴きながら、自分の声を友だちの声と調和させて斉唱や合唱をしている。</p>
-----------------	--	--	---

4 指導と評価の計画（全6時間・本時 第一次 第4時）

次	ねらい	教材	時	学習内容（○） 学習活動（・）	ア	イ	ウ	具体の評価基準 （評価方法）
					関・意・態	創意工夫	表現の技能	
第一次	歌声に和音の伴奏が重なって醸し出す美しい響きや、その変化などを感じ取って、響きを生かした演奏の仕方を工夫する。	静かにねむれ	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○曲想を感じ取る。 ・CDを聴きながら情景を想像したり、伴奏に合わせて主旋律を歌ったりする。 ・曲想を感じ取って、滑らかな歌い方を工夫する。 	○			ア① 演奏の聴取
			第2時	<ul style="list-style-type: none"> ○和音伴奏に親しみ、音の重なりを感じ取る。 ・範奏を聴いて、鍵盤楽器1、2のパートの響きを感じ取る。 ・和音の響きを感じ取ったり和音について理解したりする。 ・それぞれのパートを鍵盤楽器で練習する。 ・主旋律と鍵盤楽器1、2のパートを合わせ、全体の響きを感じる。 			○	ウ① 演奏中の様子の観察 ワークシート
			第3時	<ul style="list-style-type: none"> ○ふしに合う和音を見つけながら、和音の響きを感じ取る。 ・既習曲の簡単なふしに合う和音（I・IV・V・V7）を見つける。 			○	イ① 演奏中の様子の観察や演奏の聴取 ワークシート

			第4時	<ul style="list-style-type: none"> ○主旋律に合う和音伴奏を工夫したり、音色に変化をもたせたりする。 ・感じ取った響きを生かして演奏を工夫する。 ・主旋律とグループごとにつくった和音伴奏を合わせて演奏する。 	○		イ① 演奏中の様子の観察 発表の聴取
第二次	それぞれの声部が重なり合う響きや、その変化などを感じ取って、柔らかい自然な歌声で歌う工夫をしたり、主旋律を中心にした響きのバランスを工夫したりしながら合唱する。	それは地球	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○旋律の特徴や和音の響きを感じ取る。 ・CDを聴き、曲の感じをとらえる。 ・曲想を感じ取って、主旋律の階名唱や歌詞唱をする。 ・主旋律以外の旋律をそれぞれ歌う。 	○	◎	ア② 演奏中の様子の観察 イ② 演奏中の様子の観察や演奏の聴取 ワークシート
			第2時	<ul style="list-style-type: none"> ○3声の響きを味わって合唱する。 ・各パートを再度練習して音程を確かめる。 ・伴奏に合わせて、3・4フレーズ目を合唱する。 ・2つのグループに分かれて、歌ったり聴き合ったりする。 			ウ② 演奏中の様子や発言の観察

5 教材名

「静かにねむれ」	武井 君子	作詞	フォスター	作曲/浦田健次郎	編曲
「夕やけこやけ」	中村 雨紅	作詞	草川 信	作曲	
「それは地球」	長崎 一男	作詞	森 京太郎	作曲	

6 本時の学習（第一次 第4時）

(1) 本時の目標

○「夕やけこやけ」のふしに合う和音を見つける活動をとおして合奏の表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもつことができる。

(2) 本時の評価規準

○互いのリコーダーの音、リズム、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりや和声の響き、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、合奏の表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。

(イ①)

(3) 準備物

・和音カード・ワークシート・楽譜（夕やけこやけ）・夕焼けの写真

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点		評価規準 (評価方法)
	T 1	T 2	
1 「静かにねむれ」を歌う。	○伴奏の和音の響きを感じながら歌わせる。	○和音の響きを強調した伴奏をする。	
2 和音クイズをする。	○前時で学習した和音の響きについて確認する。 ○ I・IV・V・V7の和音を弾き、和音カードの中から答えを選ばせる。 ・クイズ形式で進めることで、楽しく和音の響きを感じ取らせる。	○和音を弾き、音の響きを確かめさせる。 ○クイズの問題を出す。 ○単音に和音付けはわかりにくいので、メロディーに和音付けして判断させる。	
3 本時の学習のめあてを知る。	「夕やけこやけ」の曲に合う和音をみつけて、和音の響きを生かした演奏を工夫しよう。		
4 「夕やけこやけ」のふしを練習する。	○歌詞と写真を見せ、詞の朗読をさせてから曲想を膨らませ、歌につなぐ。 ○ふしの流れをつかませるために、階名唱をさせたり、リコーダーでふしをふいたりさせる。	○朗読からイメージを膨らませ自然に歌につなぐ伴奏をする。 ○児童の実態に合わせて、曲の速さを調節する。	
5 みつけた和音を発表する。	○「夕やけこやけ」のふしに合う和音みつけの活動を発表する。 ○グループごとにみつけた和音を演奏する。 ○グループ発表を聴き比べ合い、よりよい表現をみつける。	○演奏発表や感想交流の補助をする。	
6 みつけた和音の響きを生かした演奏を工夫する。	○グループでみつけた和音の響きを生かした演奏表現の工夫を考えさせる。 ○ワークシートに表現の工夫について書かせる。 ○低音部を加えて演奏させる。 ○2グループの指導をする。	○響きを感じ合える演奏の仕方の工夫について考えられるよう、具体的な視点(出だし・音量のバランスなど)を与えながら支援をする。 ○2グループの指導をする。	○互いのリコーダーの音、リズム、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりや和声の響き、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りなが

どの和音の響きが合っているかを感じ取っている。

音を感じる場面

<p>7 演奏表現の工夫を聴き合う。</p>	<p>○考えた工夫点に気をつけて演奏させる。</p> <p>○演奏後、どのような点に気をつけて演奏したか、また、聴いた感想について、子どもの言葉で交流をさせる。</p>	<p>○感想交流や演奏発表の補助をする。</p> <p>○板書をして、出てきた意見をまとめる。</p>	<p>ら、合奏の表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p>
<p>ことばの活用ポイント 演奏を聴いた感想を発表させる。</p>	<p>・出だしをそろえると和音の響きがきれいに聞こえる。</p> <p>・リコーダー・オルガンの音量バランスを考えた。</p> <p>・音が切れないように気をつける。</p> <p>・やさしい感じのふしに合うように、音色を変えた。</p>	<p>自分の考えをもって、演奏表現を工夫している。</p>	<p>(演奏中の様子の観察や発表の聴取)</p>
		<p>表現する場面</p>	<p>【イ①】</p>
<p>8 本時のまとめをする。</p>	<p>○今日の学習をふり返り、学習のまとめをワークシートに書かせる。</p> <p>・響きが合うと気持ちよかった。</p> <p>・和音を聴きながらふしを吹くと吹きやすかった。</p> <p>・和音の響きを感じながら演奏すると、もりあがる感じがした。</p>	<p>○書きにくい児童への声かけと支援を行う。</p>	
	<p>〈本時のまとめ〉 自分の考えや願いをもって、演奏する。</p>		